

Q

市公共施設の保全の考え方

A

長期的視点に立った対応をする

五伝木隆幸 議員

質問一 これまでに設置した小学校5校の空調設備の整備概要は。

二 小学校3校と中学校5校に空調設備が導入できなかった理由は。

三 来年度から着手する小中学校空調設備設置事業では機能上、財政上、管理上の課題についてどのように検討しているのか。

四 既存施設の有効活用や計画的な保全を担う組織体制の構築、財

源確保の制度化と活用についてどのように対応するのか。

答弁一(教育委員長) 防衛省の教育施設等騒音防止事業の補助金を活用し、除湿温度保持工事として空調設備の整備を実施した。

二 平成7年に起きた阪神・淡路大震災を契機に学校施設の耐震化を図ることが最重要課題と位置付けたためである。

三(市長) 児童生徒の健康管理の観点から、喫緊の課題として導入したい。維持管理経費などの後年度負担や節電への取り組みを考慮し機器の選定を行い、関係部門が一体となって取り組むように努めていく。

四 長期的かつ全庁的な視点から、公共施設使用計画書を作成する準備を進めている。また、喫緊の課題への対応についても、施設利用計画を見据えて取り組んでいく。



建築課窓口

Q

被災地支援ボランティアについて

A

引き続き被災地支援を行う

出雲敏太郎 議員

児童生徒の健康管理の観点から、喫緊の課題として導入したい。維持管理経費などの後年度負担や節電への取り組みを考慮し機器の選定を行い、関係部門が一体となって取り組むように努めていく。



被災地ボランティアによるがれきの撤去作業

質問一 本市における被災地支援災害ボランティアの参加状況はどのようになっているか。
二 今後のボランティア活動の計画はどのようになっているか。
三 教育の一環として中学生等も被災地に行くことについて。
答弁一(市長) 市社会福祉協議会が主体となり、埼玉県社会福祉協議会及び中央共同募金会の助成金をもとに災害支援ボランティア・バスパック事業を5月下旬に1回、7月上旬に2回の計3回実施した。延べ参加人数は、102人である。

ランディア・バスパック事業を再度実施することを考えている。
三(教育委員長) 市内小中学校では生徒会や委員会が中心となった募金活動や、PTAが主体となった義援金による支援を行っている。被災地のニーズや宿泊地の確保、費用の問題、安全面への配慮などを考えると、中学生が実際に被災地を訪れて支援活動を行うことは難しいと考えている。
◎その他の質問
一 公園におけるトイレの設置について
二 共栄一本松線と鉄砲道について

二 市社会福祉協議会においてボ